

▼フレンズコーナー

シニア土木技術者ができる社会貢献とは？

～CVV (Civil Veterans & Volunteers) の活動～

元大阪市職員／CVV 事務局

黒山 泰弘

**CVV とは**

一線を引いた土木技術者が社会に貢献することを意図しても、そのほとんどは組織の一員として活動してきており、また土木事業は多様な技術分野の統合で成り立つことから、個人での活動には限界がある。そこでおよそ 25 年前に関西在住のシニア技術者が中心となり CVV が組織され、継続的に活動されてきた。しかしながら、創設期メンバーの高齢化が進んだことから組織の見直しが必要となり数年前、古田均大阪市立大学特任教授（現代表）、川谷充郎神戸大学名誉教授（現幹事長）が中心となって新たなメンバーを招集し、土木分野の「技術伝承」、「市民広報」、「技術支援」をキーワードとし、従前の実績をベースとしつつ、メンバーが企画した以下のような活動を実施している。

「浪速の名橋 50 選」の紹介

「浪速の名橋 50 選」は、松村博氏（元大阪市職員）が選定し、以前関西支部 HP にリンクされたものである。その後リンクが外されたが、広く支部選定の 50 選と認識されていた。そこで、支部幹事団との協議を経て、支部 HP への再掲載に向けた調査活動を開始し現時点で完了している。

具体的な調査活動としては、選定時の経緯や内容を理解するため、松村博氏を招いて講演会を開催した。その後、文献調査と並行して、橋の現況を把握することとし、CVV メンバーが手分けして全橋を訪れた。現地に赴くことにより、単に構造物としての橋だけでなく、周辺の環境、地域の歴史・文化と橋との関わりなどを肌で感じる事ができた。この経験は後述する取り組みに活かされている。



大学生との橋巡り（淀川）

学生、若手技術者への技術伝承

大阪の橋を題材にした以下のような取り組みを進めており、将来的にはこれらの経験を活かして市民向け見学会の開催を目指している。

①学生や若手技術者への技術伝承の実践

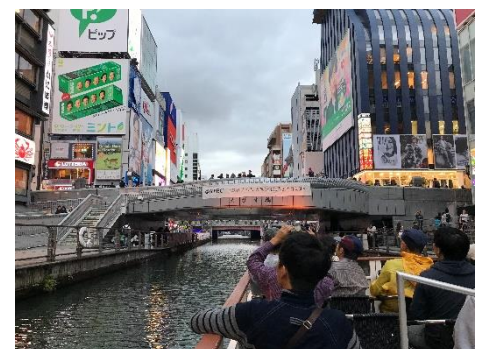
若手技術者への技術伝承として、大学生や高専生を対象に淀川の橋めぐりをコロナ禍前に数度実施した。なお、現地見学に先立って CVV メンバーによる橋の講義（歴史や特徴）も行っている。また、国交省近畿地方整備局の協力を得て、CVV メンバーと同局若手職員との船による大阪市内中心部の橋巡りと意見交換会を開催した。

②土木学会関西支部「ぶら・土木」への協力

「ぶら・土木」とは「つながる、伝える、育てる、育つ」をキーワードに若手技術者の交流と技術力の向上を目的として設けられた組織で、若手技術者自らが企画運営する様々なイベントを実施している。数年前から「ぶら・土木」と CVV とのコラボが実現し、数度中之島周辺の橋巡りを実施した。なお、実施にあたっては、CVV メンバーから橋の歴史や構造概要を事前に机上で紹介した。また、その後の徒歩による橋巡りでは、参加者 4～5 名に CVV メンバー 2～3 人が同行し、橋建設時の苦労話を交え参加者に解説した。



ぶら・土木での橋巡り（天満橋）



ぶら・土木での橋巡り（道頓堀川）

自治体、土木関連団体支援

①神戸市「土木の学校」の支援

神戸市では土木事業の市民広報に積極的に取り組んでいるが、その一環として市職員OBや市にゆかりのある専門家で構成する「土木の学校（校長：川谷充郎神大名誉教授）」において、①高校生・大学生を対象とした「橋梁模型コンテスト」の開催、②春休み・夏休み・土木の日に開催する小学生を対象とした「土木の教室」への参画、③神戸市主催の各種イベントへの出前出展などに取り組んでいる。CVVではその趣旨に賛同し、「土木の学校」に運営委員として参画するとともに、神戸市からの要請に応じてメンバーを派遣し、市民が土木への理解を深める活動に協力している。

②地盤工学会関西支部への協力

地盤工学会関西支部では学会次世代を担う若手会員の活性化、交流を目的として若手セミナーを毎年開催しており、CVVメンバーの中から発注者・設計者・施工者の異なる立場の講師が招かれ「私と地盤とのかかわり」を共通のテーマとしてオンラインでそれぞれの実務経験談を2カ年にわたって講演した。これは2018年度「第2回地盤工学サロン」において「シニア技術者の社会貢献」をテーマとするパネルディスカッションのパネリストの一員として参画したことを契機としている。

小中学生への土木広報

①小学生の学童保育支援活動

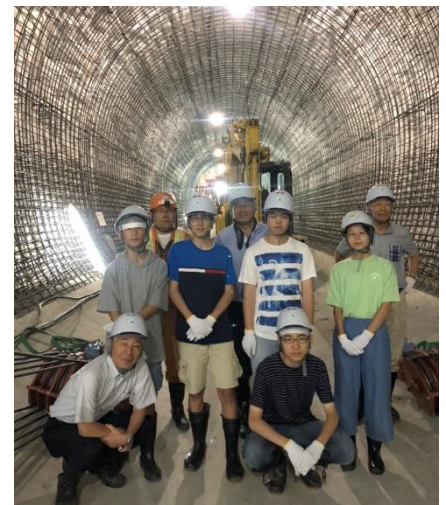
小学生の学童保育支援活動は「小学生に土木の楽しさ・素晴らしさを知ってもらおう」ことを目的に2019年度より学校関係者との協議を開始し、簡単な橋の説明を聞いてもらった後、割りばしを使ったトラス橋の模型づくりに取り組むこととした。コロナ禍で延び延びとなっていたが昨年12月に本格実施することができた。

②同志社中学校技術科への支援

土木学会誌に同志社中学技術科でのユニークな取り組みが紹介されたため同中学の担当教員にコンタクトし、CVVの現場見学会と特別授業が実現した。現場見学会は大阪府が事業を進める安威川ダムで実施し、生徒5名と担当教員が参加した。また、別途実施した特別授業では1年生4クラスで、CVVメンバーがそれぞれ実務経験談を紹介した。



大阪市内の小学校での活動



同志社中学校生徒の見学会

今後に向けて

前述のように、少子・高齢化の進展が進むわが国ではシニア層の活動支援が社会ニーズとなっている。また、一般市民の土木への理解が十分進んだとは言えない中で適切に広報していく必要があり、豊富な経験を持つシニア層の活用が望まれる。さらに、維持管理の重要性が高まる中で既存構造物の設計・施工内容を熟知したシニア層の知恵・知識を伝承していかなければならない。

「このような社会の要請にいかに対応するかが我々に問われている」との認識のもと、コロナ後を見据えて今後も活動していきたい。



大阪メトロ「ぶらりウォーク」での案内



CVV ロゴ



メンバーでの見学会（京都市内）